

大島海洋国際高校の学校理念などの整理に関する議論

学科改編検討委報告書(H17.6)

【学科改編の方向性における観点】 「海を通し世界を知る」

【取組のための基本的な考え方】

- ・海洋教育と全寮制を通した国際社会に貢献できる自律と責任感の育成
- ・実習船を活用した国際交流や留学生の受け入れによる国際的視野の醸成
- ・産学公地連携を通したグローバルな課題への挑戦
- ・日本人としてのアイデンティティの確立、世界に通用するコミュニケーション能力、英語教育の充実
- ・大学との連携及び四年制大学進学のための指導体制

学校像

- ①海洋教育と全寮制を通し、次代を担う国際感覚豊かな、たくましい人間を育成する学校
- ②「海を通し世界を知る」新しい海洋国際教育により、「人と文化の共生」「地球環境保全」「個性ある地域の創造」等の課題解決に貢献できる人材を育成する学校
- ③自国や地域の文化・歴史・伝統に対する深い理解と誇り及び他国の歴史・文化・伝統を理解し、これを尊重する態度を育成する学校
- ④4年制大学に塾や予備校に通わなくても、現役で進学できる指導体制を持つ学校
- ⑤東京海洋大学等との高大連携校として「学術アドヴァイザー制度」を設置し、最新の研究成果に基づく、質の高い教育内容を提供する学校
- ⑥環太平洋の国際交流の拠点として東京・大島と世界を結びつける役割を果たせる学校
- ⑦小中学生の心に「海へのあこがれ」を醸成し、将来の海洋の担い手の育成に寄与する学校

育てたい生徒像

- ①21世紀の国際社会の課題を把握し、これに貢献しようとする自律性、責任感のある高い志を持つ真の国際人としての生徒
- ②日本の歴史・文化・伝統に対する深い理解と誇りを持ち、他国の歴史・文化・伝統を尊重する態度を持つ生徒
- ③国際社会に通用するコミュニケーション能力をきちんと身に付けた生徒
- ④人間・社会・自然に対する探究心を持ち、より高度な学問に挑もうとする志を持つ意欲ある生徒
- ⑤グローバルな視点から地域社会の課題を発見し、これに積極的に関わる生徒

教育理念

- ①海洋教育・全寮制を通して、自然に対する「謙虚さ」「勇気・決断力」を養い、「誠実・礼節・協力」の精神を育て、国際社会に通用する自律した責任感ある人格を形成する。
- ②日本の歴史、文化、伝統に対する深い理解と誇りを持つとともに、多様な異文化を尊重する国際人としての姿勢・態度を育てる。
- ③コミュニケーション能力や英語力を培い、国際社会で活躍できる能力を育てる。
- ④確かな学力を身に付けさせ、自らの進路実現に向けて高い志を持ち、果敢に挑戦する態度・能力を育てる。
- ⑤グローバルな視点で常に地域や社会の課題をとらえ、その課題解決に向けて積極的に関わろうとする実践的態度を育てる。

設置類型

- ◆国際系 ⇒ 関係する進路：四年制大学への進学
船や寮の経験や国際理解などの学習により国際社会で活躍し得る能力を育成
- ◆海洋系 ⇒ 関係する進路：海洋系・理系大学進学、公務員
船や寮、操船、海洋観測などの知識習得や課題意識の啓発を行う

第一回検討委員会での議論の概要

- ・国の海洋政策や学習指導要領の趣旨を踏まえて、計画的に海洋人材を輩出していくことへの異論はなし
- ・海洋系について理念やキャリア像を明確にするとともに国際系については在り方を含め見直しが必要
- ・理念の具体案について、委員から提案在り
- ・特長である、寄宿舎、実習船、海という魅力を活用した教育への期待
- ・大学との連携、アクティブ・ラーニングの視点、寄宿舎教育と学校教育とのリンクなどについても議論

検討委員会での議論を踏まえた検討

- ・学校運営の基本となるビジョンが、体系的に策定されていないのではないか(学校としての普遍の理念や目的が何で、その達成に向けた教育目標は何か。理念や目的、それを達成するための教育目標がしっかりとしていれば、学校教育がぶれることはないのではないか)
- ・現行の学校理念等に当たるものは、教育基本法や学習指導要領の趣旨、都教育委員会の教育目標などと合致するものも多く、整理する必要があるのではないか
- ・設置する類型などについては、国の海洋政策や学習指導要領の趣旨を踏まえつつ、検討委員会での議論を基に、都立高校として、また、大島にある学校としてどうあるべきかを検討し、理念やビジョンの案を策定する。その際には生徒の将来のキャリアを想定する必要
- ・明確化した理念やビジョンを達成するために、どのような学校づくりをしていくかを議論していく必要
- ・他県の状況についても確認して議論していく必要